

洞窟のつくりかた 2020年11月

ダンボールの回収できる数に応じて

大きなフレームを3つつくる。

大きなフレームは強度を念頭において幾重かに重ねて接合する。

つくったフレームをつなげる行程において

フレームとその間の空間は洞窟になっていく。

制作の過程で壊れて空間が保てなくなることも想定する。

都度直しながら洞窟らしさが形成されていくこととする。

洞窟の制作に参加する人はこのシンプルな形を共有した上で、

思い通りゆくことのなさを噛み締めながら現実に現れるはずの洞窟を

探りあてるようにつくっていく。

洞窟づくりに必要なのは『勢い』である。

洞窟は2つ出入り口がある、

二つの出入り口以外に洞窟の中には外に通じる窓、

その窓を囲むように円形に小さな広場がある。

広場は外に通じていて洞窟の外からその広場も見え、

広場からも外が見渡せるようになっている

洞窟の一番広い空間では風が飛んでいて天井に空が見えたり、

大事に集めた自慢のものたちが散らばっている。

洞窟内のどこかには子供基地協会が設立されている、

ある日には音がでるものがいっぱい並べてある。

